

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

1 5 商 業

<目次>

I	「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」 の作成の手引き	P 1 ～ 2
II	「指導と評価の年間計画」（ビジネス基礎）＜例＞	P 3
III	「評価規準と単元計画」（ビジネス基礎）＜例＞	P 4 ～ 5
IV	「学習指導案」（ビジネス基礎）＜例＞	P 6 ～ 9

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価及び、生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、各授業の学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・内容のまとまりごとの目標
…学習指導要領の「内容」の(1)(2)…の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとまりごとの評価規準
…内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとまり」とは、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

◎単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標…実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
- ・単元ごとの評価規準
…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

※「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

◎指導と評価の計画に、「学習内容」と「評価規準」及び「評価方法」を示す。

- ・学習内容
…学習指導要領に示す基本的・基礎的な学習内容を踏まえ、具体的に身に付ける知識・技術等を示す。
- ・評価規準
…「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
- ・評価方法
…評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択する。

単元ごとの指導と評価の計画 <例>

1 科目『○○○○○』の目標

○○○○○

2 科目『○○○○○』の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○

3 「○○○○○」の目標

○○○○○

4 「○○○○○」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○

5 単元指導計画

◇単元名：○○○○

◇単元の目標

○○○○○

単元の評価規準			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
			○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○
授業の流れ			1次 ①○○○○ ②○○○○ (1時間) 2次 ③○○○○ ④○○○○ (1時間) }			
次	時	学習内容	学習活動における具体的評価規準及び評価方法			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	1	○○○○○ ○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○
2	1	○○○○○ ○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○○ ○○○○
		}				

Ⅱ 指導と評価の年間計画(ビジネス基礎)＜例＞

科目名：ビジネス基礎

ビジネス科

岐阜県立〇〇高等学校

目 標 【学習指導要領】		ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員として望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。			
到達目標に向けての具体的な取組 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】		・ 商業を学ぶ目的や学び方、卒業後の進路などについて、ガイダンスを通して、商業科目の専門性の基礎・基本を学習する重要性を理解する。 ・ 経済社会の一員として必要とされる望ましい人間関係、集団生活の中で個人のあるべき姿、規則を守る姿勢など豊かな人間性を身に付け、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育成する。 ・ 諸資料の活用・分析を通して、事象を考察・追求し、自分の考えを表現する場面を多く設定する。			
月	単元名	使用教科書項目（〇〇出版）	時	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4月	第1章 商業の学習 ガイダンス	1 21世紀にはばたく	2	・ ビジネスの世界の特徴的な4つのシーンを通して、ビジネスの世界の概要を理解するとともに、実践力を付けることの必要性を理解する。 ・ 商業の4つの学習分野における科目と学習内容に触れ、各分野が目指すビジネスの理解力と実践力の意義を理解する。 ・ 主体的に学ぶ姿勢を養い、進路、生涯学習の観点から商業の学び方を理解する。	行動観察 ノート
		2 しっかり楽しく学んでいこう	2		
5月	第2章 経済と流通 の基礎	1 経済のしくみとビジネス	3	・ 経済の仕組み（生産・流通・消費）や経済主体と経済循環、サービス経済化など社会の変化に対する対応について理解する。 ・ ビジネスを行うためには、生産要素（土地・資本・労働力）が必要であり、その意味と有用性を理解する。 ・ 我が国のビジネスの発展について、国際化、情報化、サービス経済化、グローバル化など、科学技術の進展と関連して理解する。 ・ 生産と消費の隔たりを理解し、その隔たりを解消する商的流通と流通経路の役割を理解する。 ・ 消費者ニーズの多様化に対応して、流通を取り巻く環境の変化を理解するとともに、特に電子商取引の進展について考察する。	行動観察 ノート レポート
		2 社会の変化とビジネスの発展	3		
		3 経済活動と流通	3		
6月 7月	第3章 ビジネスの 担い手	【前期中間考査】	1	・ 消費者ニーズを満たす製品を製造して市場に提供することが、ものの生産者の基本的な役割であることを理解する。 ・ サービスの生産者の種類を具体的に挙げ、サービスの生産とはサービスの提供を意味していることを理解する。 ・ 小売業者は、商品の販売のほか、情報提供や地域コミュニティの形成、地域文化の形成等広い役割があることを理解する。 ・ 小売業者を業種別、業態別に分類し、その特徴を理解する。また、店舗の立地・建設等には法的な規制があることを理解する。 ・ 卸売業者は、生産地と消費地の橋渡しという基本的な役割以外に、生産者や小売業者への情報提供などの役割があることを理解する。	定期考査 行動観察 レポート
		1 ものの生産者	2		
		2 サービスの生産者	2		
		3 小売業者	2		
	5 物流業者	2	・ 輸送業者と倉庫業者の種類と役割を理解し、消費者と生産者の間の場所的・時間的隔たりを解消することが物流の役割であることを理解する。 ・ 資金の需要を調整し、企業などが必要とする資金を供給することが金融業者の役割であることを理解する。 ・ 金融業者の種類と具体的な業務内容を理解するとともに、今後の金融業界の動向を考察する。 ・ 情報通信の技術開発やネットワークを構築し、サービスとして提供することが情報通信業者の役割であることを理解する。	行動観察 ノート レポート	
		6 金融業者			2
		7 情報通信業者			2
8・9月	第4章 企業活動の 基礎	1 ビジネスと企業	2	・ 企業の役割や経営理念を明確にすることの重要性を理解するとともに、出資者により複数に分類される企業形態の特徴を理解する。 ・ 企業の業務を分担し、全体を組織化することで、事業の効率化や発展に資する体制をとる重要性を理解する。 ・ ビジネスに必要な資金には、運転資金と設備資金があることを理解させるとともに、その調達方法について、その長所と短所を理解する。 ・ 企業には国税と地方税が課せられ、その種類と納税目的、特徴、納税方法の概略を理解する。	行動観察 ノート 定期考査
		2 資金調達	3		
		3 企業活動と税	3		
10月	第5章 ビジネスの 売買取引	【前期末考査】	1	・ 我が国の雇用形態の意義と特徴を理解するとともに、雇用の安定や福利厚生など雇用に伴う企業の責任について、具体的な事例を通して理解する。 ・ 企業倫理と社会的責任について、理解するとともに、企業におけるコンプライアンス及びコーポレートガバナンスの重要性を考察する。	行動観察 レポート
		4 雇用	2		
		5 企業倫理	2		
11月	第6章 売買に関する 計算	1 売買取引の手順	2	・ 売買契約の意義や売買契約の条件及び締結と履行などの売買取引の手順について理解する。 ・ 業者同士の取引において、現金通貨、小切手、約束手形、為替手形、その他の代金決済方法の特色と仕組みについて理解する。 ・ 電子商取引のしくみや分類、代金決済について理解する。	行動観察 ノート
		2 代金決済	4		
12月	第7章 ビジネスと コミュニケーション	1 売買に関する計算の基礎	4	・ ビジネス計算の技術を身に付ける。割合の計算、建値による商品代価の計算、仕入原価、予定売価等、損益額と損益率等の計算方法について、理解する。 ・ 度量衡や貨幣換算、利息の計算などの売買に関する計算を問題演習を通して理解する。	行動観察 ノート レポート 定期考査
		2 売買に関する計算の応用	5		
1・2月	第7章 ビジネスと コミュニケーション	【後期中間考査】	1	・ コミュニケーションの重要性を理解するとともに、特に話し方、聞き方について、実習を通してそのポイントを体得する。 ・ 社会人として良好な人間関係を築くため、ビジネスの場面に応じた話し方、言葉遣い、応対作法等について、ロールプレイングを通して、理解する。 ・ 企業では様々な情報の特徴を理解するとともに、情報を収集・選択し、分析、課題発見等に活用するなど情報の重要性を考察する。	行動観察 ノート レポート 定期考査
		1 コミュニケーション	4		
		2 ビジネスマナー	5		
3月	第7章 ビジネスと コミュニケーション	3 情報の入手と活用	3		行動観察 ノート 定期考査
		【後期中間考査】	1		
合計時間数			70		

Ⅲ 「評価規準と単元計画」

単元ごとの指導と評価の計画 <例>

1 科目「ビジネス基礎」の目標

ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

2 科目「ビジネス基礎」の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ビジネスについて、関心をもち、ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、経済社会の一員としての望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会の一員としての望ましい心構えについて理解している。

3 「企業活動の基礎」の目標

企業の形態と経営組織、資金調達、企業活動と税、雇用の形態と雇用に伴う企業の責任を取り扱い、企業活動に関する基礎的な知識を習得させる。

4 「企業活動の基礎」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
企業活動について、関心をもち、企業の形態と経営組織、資金調達、企業活動と税及び雇用の形態と雇用に伴う企業の責任について探求しようとしている。	企業の形態と経営組織、資金調達、企業活動と税及び雇用の形態と雇用に伴う企業の責任について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	企業活動に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。	企業活動に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、企業の形態と経営組織、資金調達、企業活動と税及び雇用の形態と雇用に伴う企業の責任について理解している。

(評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 専門教科) 参照)

5 単元指導計画

◇単元名：雇用

◇単元の目標

我が国における雇用形態の特徴と多様化について理解するとともに、雇用の安定や福利厚生など雇用に伴う企業の責任について、具体的な事例の考察を通して理解する。

単元の評価規準			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
			・雇用の意義や我が国の雇用の特徴について関心をもつとともに、様々な雇用形態の特徴や課題について意欲的に調べ、まとめようとする。	・雇用の意義や我が国の雇用の特徴について考察するとともに、様々な雇用形態の特徴や課題について自らの問題として捉えようとする。	・我が国の雇用の特徴についてまとめるとともに、様々な雇用形態の特徴や課題について最新の動向を調べることができる。	・雇用の意義や我が国の雇用の特徴、様々な雇用形態の課題や特徴を理解している。
授業の流れ			1次 ①雇用の意義 ②わが国における雇用の特徴 …… (1時間) 2次 ③さまざまな雇用形態 ④雇用にとりまな企業の責任 ⑤すべての人が誇りをもって働くために …… (1時間)			
次	時	学習内容	学習活動における具体的評価規準及び評価方法			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	1	・雇用の意義について、賃金、雇用契約、失業率などの意味を理解する。 ・我が国における雇用の特徴について、終身雇用、年功序列・成果主義賃金制度、労働組合などのキーワードを理解する。	・雇用の意義や我が国の雇用の特徴について関心を持ち自ら意欲的に具体例を挙げようとしている。 (行動観察)		・我が国の雇用の特徴についてまとめるとともに、様々な雇用形態の特徴や課題について最新の動向を調べることができる。 (ワークシート)	
2	1	・正規雇用と非正規雇用、福利厚生制度について理解し、特に非正規雇用の現状やその問題点を考える。 ・今日の雇用には、様々な課題がある中、すべての人が誇りをもって働くことができる環境に必要な要素を考える。		・我が国の雇用の現状をデータから考察し、その課題について自らの問題として捉えるとともに、自分の意見として表現しようとしている。 (対話、ワークシート、行動観察)		・様々な雇用形態の課題や特徴を理解している。 ・福利厚生制度を理解している。 (対話、ワークシート、行動観察)

学 習 指 導 案

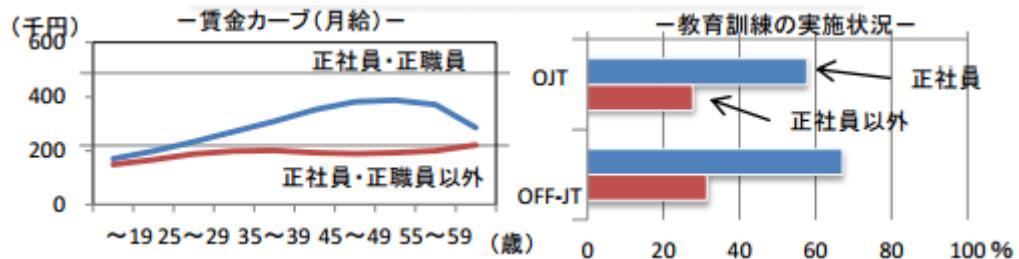
科 目	ビジネス基礎	使用教科書	ビジネス基礎	使用教材	ワークシート、求人票
指 導 学 年	1 年	〇〇〇〇科		使用教室	〇〇教室
単 元 名	第4章 企業活動の基礎 4 雇用				
単元の目標	我が国における雇用形態の特徴と多様化について理解するとともに、雇用の安定や福利厚生など雇用に伴う企業の責任について、具体的な事例の考察を通じて理解する。				
時 間 配 当	2時間		本時の位置	2時間目	
本時の主題	我が国の雇用の現状を様々なデータから読み取り、雇用の課題を考察し、自身の働き方を考えさせる。				
本時の目標	①正規雇用と非正規雇用、福利厚生制度について理解し、特に非正規雇用の現状やその問題点を考える。 [知識・理解] ②今日の雇用には様々な課題がある中、すべての人が誇りをもって働くことができる環境に必要な要素を考える。 [思考・判断・表現]				
	指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
導 入 5 分	(前時までの復習) 1 前時の内容を復習する。 2 本時の目標と学習内容の確認をする。	・雇用の意義について、確認する。 ・雇用契約、失業率、終身雇用、年功序列、成果主義賃金制度、労働組合などのキーワードを確認する。 ・本時の学習内容を伝える。		・前時の内容が理解できているか、発問により確認する。(対話)	
展 開 40 分	Q1 資料1のグラフから何が考察できるか？ ○正規雇用と非正規雇用について理解させる。 ・正規雇用の利点（企業と社員） ・企業が非正規社員を採用する理由	・雇用形態の違いをまとめる。 ・わが国の雇用の現状について、資料1から読み取りワークシートにまとめる。 ・まとめた内容を発表する。 (代表者3～4人) ・資料2 非正規雇用を選択した理由から分かることをワークシートにまとめる。 ・まとめた内容を発表する。 (代表者3～4人)		・資料とワークシートを配付し、分かることをできる限り多く記入するよう指導する。 [評価] ・様々な雇用形態の課題や特徴について、理解できたか。 ・福利厚生制度を理解できたか [評価方法] (目標①) 対話、行動観察、ワークシート	
	Q2 企業が正規雇用と非正規雇用を行う理由は何故だと思うか？ ・正規雇用と非正規雇用の待遇の差 ○福利厚生制度の種類を理解させる。 ○非正規雇用の現状やその問題点を考えさせる。 ○ワークライフバランスを紹介し、その実現について意見交換をさせる。	・資料3から特に気になることを挙げる。 ・今日の雇用には、様々な課題があるなか、企業に求められていることを理解する。 ・ワークライフバランスについて考え、全ての人が誇りをもって働くことができる環境づくりを考える。 ・意見を発表する。 ・将来の働き方を考え、これから就職するわたしたちはどのようなことを心掛けたらよいかを整理する。		・説明の意図を理解し、より多くの観点について気付くことができたか。 [評価] ・我が国の雇用の現状をデータから考察し、その課題について、自らの問題として捉えるとともに、自分の意見として、表現しようとしているか。 [評価方法] (目標②) 対話、行動観察、ワークシート	
ま と め 5 分	・求人票から就職したい企業を挙げさせる。 ・次時の予告	・求人票を比較して、何を基準に企業を選択するか、ポイントと理由を整理する。		・ワークシートに記入 ・本時の学習内容について理解しているか確認する。 ・ワークシートを回収	

(平成25年度教育課程講習会資料 参照)

○ 授業で使った教材

雇用の現状－正規雇用と非正規雇用の労働者の推移

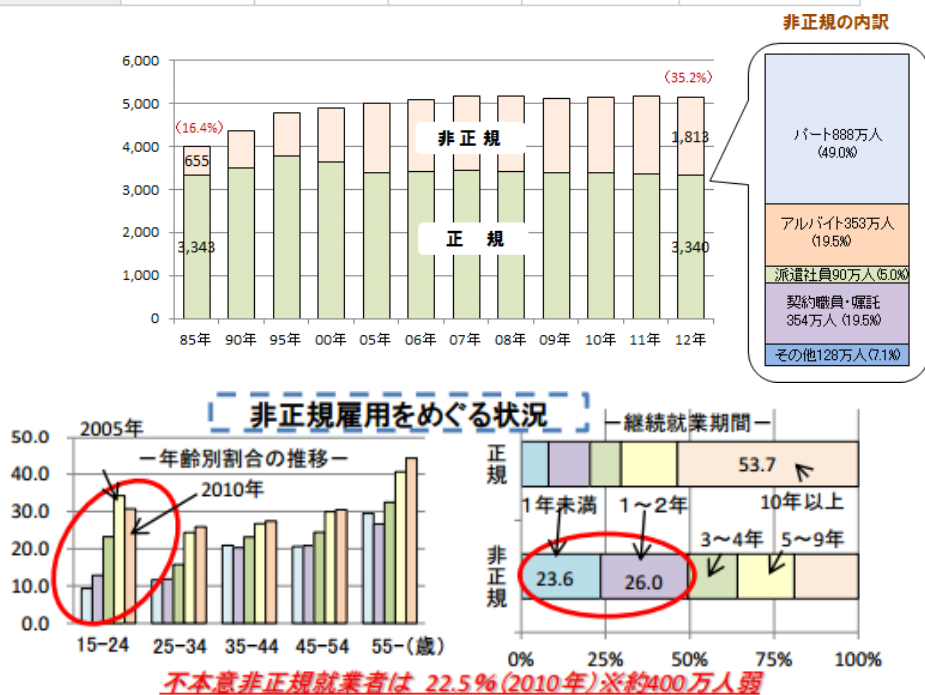
【資料1】



【各種制度の適用状況】

(%)	雇用保険	健康保険	厚生年金	退職金制度	賞与支給制度
正社員	99.5	99.5	99.5	78.2	83.2
正社員以外	65.2	52.8	51.0	10.6	32.4

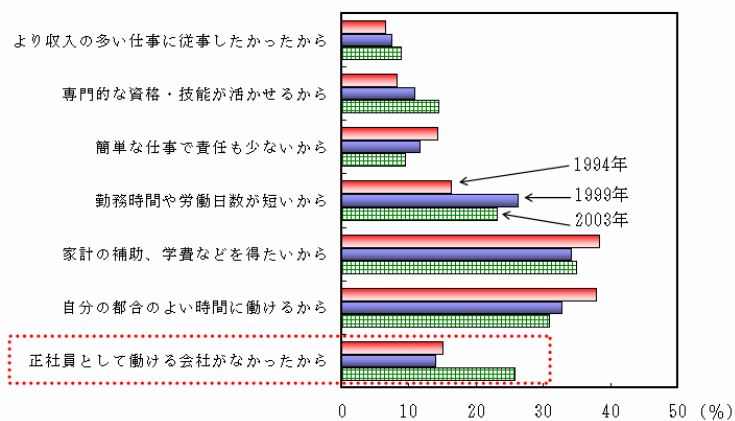
【資料2】



【資料3】

非正規雇用を選択した理由

約2割の労働者がやむを得ず非正規雇用を選択



【資料1】～【資料3】については、厚生労働省「非正規雇用の現状」派遣 有期労働対策部企画課 平成24年9月資料より

○ ビジネス基礎「雇用」ワークシート

1 A[]番 氏名[]

雇用形態—企業と社員が結ぶ雇用契約の分類のこと

正規雇用	正社員	雇用期間を定めず〔 〕まで長期的に働く
非正規雇用	契約社員	雇用期間が定めてある。一般職では3年、専門職では5年まで
	派遣社員	派遣契約時に決められた期間で仕事
	パート社員 アルバイト	雇用期間が〔 〕期間で、労働時間が〔 〕時間
	その他	業務委託やフリーランスなど

資料1のグラフが表していることを箇条書きで記入しよう。

企業が、正社員を採用する理由は

企業が、非正規雇用をする理由は

資料2のグラフが表していることを箇条書きで記入しよう。

資料3から、あなたが思うことを記入しよう。

就職したい企業を選び、その理由をまとめてみよう。

ワーク・ライフ・バランスの実施についてあなたの意見を記入しよう。

将来、どのような雇用形態で働きたいか、その理由も含めて記入しよう。

○指導上のポイントと考察

科目「ビジネス基礎」の第1章は、商業を学ぶためのガイダンス項目があり、自らの進路について考えた。この小単元では、これを踏まえて、自身の将来の働き方を雇用状況の観点から考えさせる。

- ① 非正規雇用が増えている現状を把握させる。
- ② なぜ、非正規雇用が増えているのか、若年者雇用の現状と課題を認識させる。
- ③ 「やむを得ず非正規雇用を選択したもの」が2割以上いる現状をとらえ、なぜそうなったのかを考えさせる。若年者雇用の課題について補足する。
- ④ 雇用環境が大きく変化する中で、企業側の責任やワークライフバランスの実現についても理解させ、意見交換をすることで、様々な考えを聞く。
- ⑤ 現在、雇用環境は大変厳しいことを認識させるとともに、誇りをもって働くためにはどうしたらよいかを考えさせる。併せて、今後の高校生活を充実させることにも触れる。
- ⑥ 企業側の視点だけでなく、働き方や就職するにあたっての心構えについても考えさせる。